

Title	Matveev, Z. N., Sostoianie bibliographicheskoi literatury Dal'ne-Vostochnogo Kraia, 1926
Sub Title	
Author	小島, 武男(Kojima, Takeo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1932
Jtitle	史学 Vol.11, No.1 (1932. 3) ,p.143- 144
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19320300-0144

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

を發見しヌエドマコフ、マルコフ兩村附近より滿洲民族の建設せし都邑を見ることが出來、ヌザヴィト河岸よりは古墳を發見して居る。沿海州及びサガレン地方に於て發見されたる遺跡、遺物には、ニコリスクウスリー地方ビキン河沿岸附近にある舊都よりは、壕を有する土砦を發見し、スーチャン、ホール河岸には穴居民族の棲息せしことを證する洞窟がある。尙ボシエト灣岸よりは厨房貝(主として介殼にて作りしもの)が多く發見されて居る。以上のことについてはヴェ・カ・アルセニエフ氏が紀要に發表して居る論文を參考とすべきである。尙この附近には往昔の道路が處々にあり交通史上貴重な材料とされて居る。貝加爾湖附近には舊邑、土砦等があり、その内最も興味あるものは、ニコドウニスキーの廢址であり、加之附近に洞窟等も發見されてゐる。又セレンガ、チロイ、アムール、アルグナの諸河岸よりは石材を用ひた古墳が發見され、坐棺、寢棺組があり、附近の碑石の記銘により石器時代の狩人の生活の一部を窺ふことが出來、尙碑石のあるものには古トルコ文字が記されて居る等史材としても可成り貴重なものがある。」

尙、氏は極東古錢學等についても、詳細に述べて居るが、あまり長くなるので、この位にしてをく。要するに氏は本文に於て、史籍の缺けて居るところは、考古學により、以て完全なる極東地方史を編した譯である。只、筆者の欲を言はせれば、殖民の項に於て、先住土着民、古住ロシア人について今少しく詳しく知りたかつたことである。(小島武男)

Matveev, Z. N. Sostoianie bibliographi-
cheskoi literatury Dal'ne-Vostochnogo
Kraja. 1926

本書「極東地方文獻目錄編纂」は、矢張り上述のゼ・エヌ・マトヴェフ氏の著である。小冊子であつて、又決して新しいものではないが、記載してある文獻は何れも極東研究(人文科學的に)に志す士にとつては、見逃し得ざる貴重な文獻のみを厳選してあることで、極東研究と切離すことの出來ないものであるといつても敢て過言ではあるまい。

元來極東地方を研究した論文、報告書等(ロシアに於て出版されたもののみ)を計へて見ると一萬有餘に達するのである。が、その内、何れが重要なものであるかといふことを知ることは決して容易なことではないのである。氏は本書に依つて、以上の不便を除くために、特に自己の専門的立場より、數多き内より是非必要な文獻を選択して編したのが本書である。内容は各著者がアルファベット順に排列されて居り、主要なものには、簡單ながら解説が付してある。只、欲を言へば、これを更に分類によつて排列してもらいたかつたことである。

文獻のことを書いた序でに、ロシアに於ける、極東地方に關する文獻編纂の過程を少しく書いてみやう。

ロシアに於ける最初の極東地方文獻目錄とも稱し得べきものは、一八八二年にエフ・エフ・ブッセ氏が著した「アムール地方の文獻」である。本書は千四百十七の論文、報告、地圖及び公文書等

が記載されて居る。書名はアムール地方であるが、内容は廣く、極東全般に亘つてゐる。その後ロシア地理學協會沿海州部が數年に亘つて文獻の蒐集につとめ、一九一二年に同部圖書館より、同館目録アムール部第一巻として極東地方に關した文獻目録を公にしたのである。次にゼ・エヌ・マトヴェフ氏(本書の著者)が一九二五年に「極東地方に關しては如何なるものを讀むべきか」といふ題で極東地方文獻の紹介をなしたことがある。一九二二年にはペ・デ・レヂイン氏が「シベリヤ及び極東地方文獻抄」なるものを雜誌「極東」に發表して居る。一九一七年にはヴェ・エ・グルズドウスキー氏が「沿海州地方及び北滿洲」なる文獻目録をウラディヴォストクより公にして居る。

これより先、一九〇三年にヴェ・イ・メヂョフ氏が「シベリヤ文獻」なる著を公にして居る、これは三冊よりなり、今日一寸容易に求め得られないけれど、シベリヤに關する限り、文獻は細大もらさず記載されて居る。只、出版されてより今日まで可成り多くの文獻があるので、これ等を加へて新しく出版すれば學界に益するところ非常に多いと思ふが。

各地別には、カムチャツカに關しては、一九一五年にエヌ・ゲ・アルツイノフ氏が雜誌「クロンシユタトスキー・ヴェストニク」に「カムチャツカ、オホツク海北岸の住民に關する文獻」なるものを公にして居るが、可惜、單に同誌上に公にしたのみであること、完結しなかつたことである。尙、カムチャツカの文獻については、エヌ・ヴェ・スリユーニン氏がその著「カムチャツカ地方」の第二卷に詳細に記して居る。

コマンドルスク半島の文獻については、一九一二年にエ・カ・スヴォロフ氏が著した「コマンドルスク半島」に記してある。

後貝加爾地方については、一九二二年にゲ・ヴィノグラドフ氏が雜誌「ヴェストニク・プロスヴェシチエニエ」第一號—六號に文獻を記載して居り、尙、ヴェ・ペ・ギルチエンコ、カ・イ・ヴェリシン、ア・ペ・バーヂンの諸氏が編した「沿貝加爾地方文獻」(一九二三年)がある。(小島武男)